

## 岡山大学における農業土木に関わるキャリア教育の現状

## Current Status of Career Education

Related with Irrigation, Drainage and Reclamation Engineering in Okayama University

近森秀高\*

CHIKAMORI, Hidetaka\*

**1. はじめに** 大学の学部卒業生および博士前期課程修了者は、就職後即戦力となることが期待される。また、大学設置基準でも、「社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うための体制を整えること」が求められており、いずれの大学でも在学中のキャリア教育が重視されている。大学にとっても、わが国における少子化の進行に伴って懸念される受験倍率の減少への対策として、大学を選択する際の評価指標として重視される就職率の向上のためにキャリア教育は重要である。本稿では、岡山大学で農業土木に関する教育・研究を行っている環境管理工学科におけるインターンシップを含むキャリア教育の現状を紹介し、その技術者教育との関連について述べる。

**2. 基礎的キャリア教育** 岡山大学では、平成 22 年に設置されたキャリア開発センターを中心として、全学的なキャリア教育および就職支援活動が行われているが、環境管理工学科の上位組織である環境理工学部は、同センターの設置よりも早い平成 18 年に、独自でキャリアサポート室を設置して就職支援活動を行い、成果を上げてきた。キャリアサポート室には民間企業でのキャリアを持つ教員が所属し、就職支援とともに、キャリア教育に関わる専門基礎科目として 2 年次生を対象に「キャリア形成論」(選択, 2 単位)を開講し、自己理解, 職業観, 雇用・労働に関する基礎知識等に関する講義により、学生の職業意識の醸成を図っている。また、技術士の資格を持つ学部教員が担当する科目として「技術者倫理」(必修, 2 単位)を開講し、専門家としての技術者の責任・倫理に関する講義を、様々な具体的事例を用いて行っている。これらの科目は、社会人として活躍するための基礎を築きあげるものであり、技術者教育としても重要な役割を果たしている。

**3. 環境管理工学科におけるインターンシップの現状** 環境管理工学科では、農業土木分野におけるインターンシップに関わる選択科目として「環境管理工学実習」(2 単位)が授業科目として設けられている。この科目では、農林水産省を中心とした事業実施機関等において、調査, 測量, 設計計算, 製図あるいはコンピュータ利用等を中心とした就業体験・現地実習を通して、農業農村整備事業に関する深い知識, 問題点の把握能力, 適切に対処できる基礎能力, 高い職業意識, コミュニケーション能力を獲得することを目的としており、3 年次生を対象に、夏季休業中に約 2 週間程度の期間、全国各地の事業所等に依頼し、実習を行っている。

環境管理工学実習で単位を取得したインターンシップ参加者数を受入機関別に表 1 に示す。例年、平均 10 人程度が、環境管理工学実習としてインターンシップに参加し単位を取得している。環境管理工学科の学生数は各学年約 40 人であるから、約 1/4 の学生が農業土

\* 岡山大学大学院環境生命科学研究科,  
Graduate School of Environmental and Life Science, Okayama University  
技術者育成, 教育手法, インターンシップ,

木に関連するインターンシップに参加していることになる。実習の成績は、実習先での評価と実習終了後のレポートによって評価される。また、実習生によるレポートは、環境管理工学科の同窓会誌（拓水会誌）にも掲載される。

この他、環境管理工学実習として単位認定されないインターンシップに自主的に参加する学生もいる。正確な参加者数は把握できていないが、受入機関は、都道府県、金融機関、農業関連企業、製造業など様々である。農業土木とは別の分野のプログラムが多いが、中には、農業土木と関連があっても研修機関が短いために単位認定されなかった事例も見られた。

**5. インターンシップの課題** 農業土木関係機関でのインターンシップは技術者教育として有効であり、環境管理工学実習への参加者をさらに増やしていきたいところであるが、現状では、以下のような課題が挙げられる。

1) 学生の意識 環境管理工学科では、3年次生を対象に農業土木関連のインターンシップ教育の機会を提供しているが、夏季休業前の時点では、農業土木に関わる職業に対する学生の意識は高いとは言えず、休暇中課外活動等を優先しようとする学生も少なくない。1, 2年次に、環境管理工学科の卒業生を含む現場技術者による講義等により、学生に早期に現場への興味を持たせ、インターンシップによってより効果的な技術者教育を行うことができる環境を整える必要がある。

2) インターン受入依頼機関の拡大 現在は、主に、農林水産省を中心とした事業実施機関に受け入れていただいているが、参加希望者が増えた場合は、都道府県や、民間の農業土木関連のコンサルタント会社に受け入れをお願いしなければならないであろう。また、環境管理工学科の学生は、卒業後公務員を含む農業土木分野へ進む者が多いが、図1に示すように、農業土木系以外の分野へ進む者も少なくない。このような状況を踏まえると、インターンシップの対象を農業土木以外の技術分野に広げることも考えられる。農業土木分野と、これと異なる技術分野の双方でインターンシップによる研修の機会を提供し、農業土木を含む幅広い分野への視野を持つ人材を育てることは、技術系学科の教員としての理想の一つであるように思われる。

謝辞 本学科学生に貴重な実地体験の機会を提供していただいた各機関の皆様に深謝いたします。

表1 インターン受入機関別参加者数  
(岡山大学環境理工学部環境管理工学科)

受入機関	年度(平成)				
	22	23	24	25	26
中国四国農政局	1	3	5	2	8
九州農政局	1	2			1
近畿農政局	1	2	1	4	3
北陸農政局		2		1	
東海農政局	4	1			1
関東農政局				1	
内閣府(沖縄総合事務所)	1				
(独)農研機構		1			3
水資源機構				1	
岡山市				1	
日本工営(株)				1	
計	8	11	9	8	16

※ただし、「環境管理工学実習」として単位認定されたものに限る。

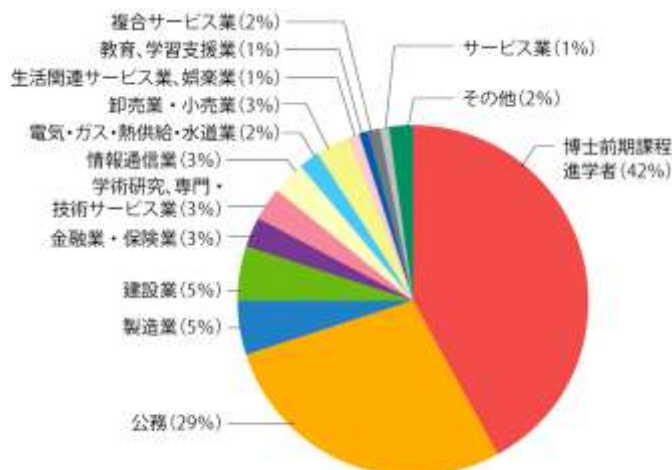


図1 環境管理工学科卒業生の進路 (平成23年～25年) (2014年版学部案内より)